

# WebQuery のトランザクション タイマーの仕様変更に関するご案内

2024/3/29

## トランザクションタイマーの仕様変更について

平素は弊社製品「WebQuery」をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

バージョン 24.0.1 より、WebQuery におけるトランザクションタイマーの仕様を下記の通り変更いたしました。

バージョン	仕様
24.0.0 まで	<p>WebQuery の CGI と業務サーバー間の 1 回の通信を 1 トランザクションとして管理するタイマー。</p> <p>処理を実行して結果データが取得されるまでの間、WebQuery の内部では CGI と業務サーバー間で処理情報の取得、カラム一覧の取得、SQL の生成、SQL の実行と結果データの取得など、様々な通信が複数回に渡って行われる。</p> <p>各通信の度にトランザクションタイマーがリセットされるため、実行から結果データ取得までの時間がトランザクションタイムアウト値を超過していても、トランザクションタイムアウトが発生しない場合がある。</p>
24.0.1 以降	<p>1 実行を 1 トランザクションとして管理するタイマー。</p> <p>処理を実行して結果データが取得されるまでの一連の流れが 1 トランザクションとなる。</p> <p>その間の処理時間がトランザクションタイムアウト値を超過した場合はトランザクションタイムアウトが発生する。</p>

## トランザクションタイムアウト機能について

データ抽出などの処理時間がトランザクションタイムアウト値より長い場合に、実行を制御する機能です。

WebQuery 管理ツールのトランザクションマネージャの設定画面よりトランザクションタイムアウト値を設定することができます。

項目名	説明
ASYNC_TIMEOUT	バックグラウンド処理のデータ抽出における実行タイムアウト値を設定します。(単位：秒)
TIMEOUT	バックグラウンド処理以外のデータ抽出における実行タイムアウト値を設定します。(単位：秒)

[ 設定箇所 ]

System Consultant  
WebQuery 管理ツール Version24.0.1 接続サーバー:webquery.com SystemConsultant

業務の設定  
サーバーの再起動  
サーバーの状態  
ログの設定  
マネージャの設定  
トランザクション  
セッション  
その他  
環境変数の設定  
サーバーの設定

トランザクションマネージャの設定

追加 Go!

	項目名	値	コメント
1	ASYNC_TIMEOUT	600	
2	MAXTRAN	20	
3	TIMEOUT	600	

## トランザクションタイマーの仕様変更に伴う注意点

バージョンアップ前に実行とデータ取得をできていた処理が、バージョンアップ後に実行するとトランザクションタイムアウトとなり、データを取得できない可能性があります。

WebQuery のエラーログ (error.log) を確認し、以下のエラーが頻発している場合はトランザクションタイムアウト値の見直しをご検討ください。

トランザクションタイムアウト : Entry=(Entry) seq=(seq) gtrid=[(gtrid)], 現在時間=[(現在時間)], セット時間=[(セット時間)], タイマー値=[(トランザクションタイムアウト値)]

※ ( ) には実際の値が出力されます。

## 処理時間がトランザクションタイムアウト値を超過しているかを確認する方法

汎用検索アクセスログを取得し、項目名「処理時間」がトランザクションマネージャの設定画面の「ASYNC\_TIMEOUT」、「TIMEOUT」を超過していないかを確認してください。

汎用検索アクセスログの設定を行っていない場合、汎用検索アクセスログ設定を追加し、定型処理を実行して処理時間を計測する必要があります。

### [汎用検索アクセスログ設定値]

項目名	値	説明
UIMAXDAYS	1 - 99999 の整数	汎用検索アクセスログの最大保存日数を設定します。(出荷時設定 : 2)
UIMAXSIZE	1 - 2047 の整数	汎用検索アクセスログの最大サイズを設定します。(単位 : MB) (出荷時設定 : 3)
WQUILOG	ON	汎用検索アクセスログを記録するか否かの設定です。(出荷時設定 : OFF)

[ログファイル]

出力パス	管理ツール、ログの設定の項目名「PATH」の値
ファイル名	WebQueryUI_Access 年月日. log (例) WebQueryUI_Access20240329. log

[確認項目]

項目名	説明
処理時間	処理の所要時間 (単位: ミリ秒)
実行処理登録名	実行された定型処理名、またはバックグラウンド処理名

処理実行がトランザクションタイムアウトに掛かる場合の回避策

汎用検索アクセスログ内の最も大きい「処理時間」よりも大きい値をトランザクションタイムアウト値として設定してください。

また、トランザクションタイムアウト値の変更に伴い、各タイムアウト値を見直してください。

[タイマーの大小関係]

DB タイムアウト値 < トランザクションタイムアウト値 < セッションタイムアウト値  
< ネットワークタイムアウト値 < CGI タイムアウト値 < その他のタイムアウト値(※1)

※1 WebQuery では検知することのできない、ファイアウォールやルーターなどのネットワーク環境やブラウザなどの設定を指します。それぞれの設定箇所から設定をご確認ください。

各タイマーの詳細については「WebQuery システムガイド」の「第4章 タイマーについて」をご参照ください。

以上